

# 風水害に備える

# 風水害を知って 事前対策

## 台風

日本列島には毎年多数の台風が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害にあっています。台風情報に注意して被害が出ないように備えましょう。

台風の大きさは「風速15m/s(メートル/毎秒)以上の半径」、強さは「最大風速」で表されています。



### < 風と被害 >

風速10～15m/s	傘がさせない
風速15～20m/s	風に向かって歩けない
風速20～25m/s	しっかり身体を確保しないと転ぶ
風速25～30m/s	立ってられない。ブロック塀が壊れる
風速30m/s～	屋根が飛ばされたり、木造住宅が壊れる

### < 台風の大きさと階級分け >

階級	風速15m/s以上の半径
ごく小さい	200km未満
小型(小さい)	200km以上300km未満
中型(並の大きさ)	300km以上500km未満
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

### < 台風の強さと階級分け >

階級	最大風速
弱い	17m/s以上～25m/s未満
並の強さ	25m/s以上～33m/s未満
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

(気象庁による)

## 集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難。中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予測されます。がけ付近や造成地、扇状地などは気象情報に十分注意し万全の対策をとるようにしましょう。



### < 1時間の雨量と降り方 >

(気象庁による)

1時間の雨量	雨の降り方
10～20ミリ	ザーザーと降り、雨音で話し声がよく聞こえない。
20～30ミリ	どしゃ降り。側溝や下水、小さな川があふれる。
30～50ミリ	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。
50～80ミリ	滝のように降り、土石流が起こりやすい車の運転は危険。
80ミリ以上	雨による大規模な災害発生の危険があり、厳重な警戒が必要。

# 気象情報・注意報・警報

## 気象情報とは

気象情報は注意報や警報に先立って注意をうながしたり、注意報や警報が発表されたあとの補足や防災上の注意を解説する場合などに発表されます。

## 注意報・警報とは

大雨などのときに発表される注意報や警報は、各地域の住民に注意を呼びかけ、災害による被害を最小限に食い止めることを目的としています。

注意報は災害が起こるおそれのあるときに、警報は重大な災害が起こるおそれのあるときに発表されます。

## 気象情報・注意報・警報の種類

	種類	発表の時期
情報	台風 低気圧 大雨 大雪 少雨 長雨 低温 日照不足など	注意報・警報を補完する必要がある場合など
注意報	風雪 強風 大雨 大雪 濃霧 雷 乾燥 なだれ 着氷(雪) 霜 低温 融雪 高潮 波浪 洪水 浸水など	災害が起こるおそれがある場合
警報	暴風 暴風雪 大雨 大雪 高潮 波浪 洪水 浸水など	重大な災害が起こるおそれがある場合

## 大雨警報の基準値の例

	1時間雨量 (mm)	3時間雨量 (mm)
岐阜県(東濃、平野部)	40以上かつ総雨量150以上	80以上
愛知県(西部)	40以上かつ総雨量100以上	80以上
三重県(中部)	40以上かつ総雨量120以上	80以上
静岡県(中部、平地)	40以上かつ総雨量120以上	80以上

大雨警報は、1時間、3時間または24時間雨量のうち、いずれかの雨量が基準値を超えた場合を対象とする。

# 危険な土地では早めの避難態勢を

## こんな土地では細心の注意を

### <造成地>

地質・地形が不安定なので、豪雨によって地盤がゆるみ崩れる危険が。水抜き穴から濁り水が出始めたら要注意。



### <扇状地>

豪雨によって山崩れが起こると土石流が扇状地を直撃する。避難の準備は早めに。



### <山岳地帯>

山崩れは集中豪雨ばかりでなく地震によっても発生するので、日頃から災害対策を怠らないように。とくに樹木の少ない山間部では土石流に要注意。



### <河川敷>

昔、河川敷だったところや河川流域は豪雨によって洪水の危険が。洪水注意報、警報が出たらいつでも避難できる対策を。



## COLUMN

## 注意報・警報は地域によって違います

注意報・警報が発表される基準は、各地域によって異なります。日頃から天気予報や気象情報などに興味を持ち、自分の住む地域の地理的特徴や、よく出される予報、被害状況などを覚えておきましょう。